

マルチメディアを利用した「国語」

『東海道中膝栗毛』の授業
三重県立宇治山田高等学校 西根 輝男

この授業は、前任校の県立相可高校で平成十三年度におこなった実践である。この取り組みは、平成十三年度の三重県総合教育センターにおける「児童生徒の学習活動を支援するためのマルチメディア学習教材の研究と開発」という課題研究講座に参加したが、実践してみようというきっかけになっている。

また、この実践は、平成一四年度「みえまなびネット実践共有化プロジェクト第二回発表会」高校分科会での発表の機会を得た。その時にご助言をいただいた方には感謝申し上げます。

一 ねらい

今回の取り組みは、私の意識の中では、昨年度の三重県高等学校国語科研究会「秋の総会」でお話の機会を得た、「国語科とコンピュータ」という問題意識を、実際の授業でおこなってみたらどうなるかというものである。

実際の授業は、相可高校生産経済科一年生に、二学期中間考査後の「国語」の授業の中でおこなった。生徒には、四月当

初、二学期の中間考査後に古文、三学期の途中から漢文の授業をおこなうという指示をしていた。

授業のねらいは、「国語」古典分野で、『東海道中膝栗毛』を教材にして古典に興味を持たせたいというのが一番の目的である。その時、作品・作者・時代背景を調べ学習としてホームページを利用しておこない、その中で知ったこと・理解したことをまとめ、また、それらをクラスの他の生徒に伝えるために、コンピュータを用いてプレゼンテーションをおこなうという表現に関わる分野についても取り入れるというながれで授業をおこなった。その際、マルチメディア教材をホームページとして作成しておき、生徒の興味・関心が引き出されやすいように、インターネット上の他ホームページへリンクを張るなどの工夫をした。また、対象が高校一年生で、古典入門期にあたるため、生徒個人の興味や関心を引き出せるように声かけや助言ができるように心がけた。

マルチメディア教材は、伊勢古市参宮街道歴史資料館で実際に資料を見せてもらいながら取材をし、資料館を管理されている大川さんにインタビューをした。その取材をもとに、写真の画像・ビデオの映像を取り入れてホームページを作成し、インターネット上に公開することにより、コンピュータ室のコンピュータからいつでも利用できるようにした。

管理人の大川さんへのインタビューは、平成十三年九月二十七日（木）におこなった。内容は十二の質問からなっている。

・質問1 「自己紹介」(管理人の大川さん)

・質問2 「古市はどこからどこまでをいうのか」

(古市は、現在の伊勢市駅側の小田の橋から、内宮側の牛谷坂までをいう。)

・質問3 「古市はどれぐらいの距離があるのか」

(間の山を上がって、牛谷坂までおよそ一キロが昔の古市に当たる。)

・質問4 「古市はいつ頃形成されたか」

(戦国時代が終わり、一六〇五年に徳川幕府が開かれ、人々がこぞって伊勢参宮に出かけるようになったのが始まり。)

・質問5 「一番繁栄したのはいつ頃か」

(一七〇〇年代から一八〇〇年代にかけて、もっとも繁栄した。)

目的は参宮と古市で遊ぶことであった。)

・質問6 「古市はレクリエーションの街か」

(文政十三年頃(一八三〇)のおかげ参りでは三ヶ月に約四二〇万人が参宮をし、古市で遊んでいた。)

・質問7 「東海道中膝栗毛の設定では？」

(東海道中膝栗毛の弥次・喜多は「ものが垂れ下がったような名前の旅館」藤屋で泊まったという設定になっている。)

・質問8 「油屋騒動について」

(伊勢音頭恋寝刃の題材になった事件で、お紺という遊女をめぐって二人の男が取り合いをし、二人殺され七人けがをする

という事件であった。)

・質問9 「三大妓楼の話」

(備前屋・杉本屋・油屋の三つをいい、それぞれ五〇人以上の遊女を抱えていた。)

・質問10 「歌舞伎の衣装について」

(古市には歌舞伎保存会があるほど、歌舞伎が盛んであった。)

・質問11 「萬金丹とはなにか」

(道中の腹痛薬。とても苦い。東大寺の「きおうがん」・御嶽山の「ひやくそうがん」・高野山の「だらにすけ」と並んで有名であった。)

・質問12 「あんどんについて」

(軒先につるされていた。遊郭の風情を残している。)

二、実際の授業内容について(別添の表も参照してください。)

文学史をプリントで学習する。

(今から、どの時代の文学を扱うのかを理解する。)

日本語入力を学習する。

コピー&ペースト・カット&ペーストを修得する。

(コンピュータを利用するとき、知っておかねばならないことを修得する。)

インターネット上での検索を学習する。

(調べ学習の時、どうしても知っておかねばならない技術の習得)

東海道中膝栗毛・十返舎一九を検索する

(具体的に、二人一組で簡単な調べ学習をおこなってみる)

ファイルを作成し保存する。

(調べたことを保存しておく技術を修得する)

「東海道中膝栗毛」現代語訳本文(伊勢の部分)を読む。

(自分の身近なものほど、興味・関心は抱きやすいと思われる

ので、伊勢古市の部分を現代語訳(少年少女古典文学館第21

巻『東海道中膝栗毛』興津要講談社)で内容を把握させる)

作成したホームページを使って、感想を書き込ませる。

(自分がどのような部分に興味・関心を持ったかを把握させ、

その部分をもっと詳しく調べさせる。その時、その部分が

発表の内容になることを意識させておく。)

パワーポイントの使用方法を学習する。

(発表のためにコンピュータを使う技術を修得させる)

学習したことを発表するための、スライドづくり。

発表会

授業のまとめを書き込む。

(他の生徒の発表を聞いて、感想をホームページ上の掲示板に

書き込む。)

まとめプリントの作成

(この授業を通じてどのようなことを理解したかまとめさせる。)

三 教師の支援

検索ページは、「Yahoo!Japan」や「Google」のアドレスを指

示した。また、旅や街道に関するページは、基本的に検索ペー

ジで探すよう指示したが、作成したホームページにもリンクを

張り、クリックをするだけでたどれるようにしておいた。

・Yahoo!Japan (<http://www.yahoo.co.jp/>)

・Google (<http://www.google.co.jp/>)

・「風の吹くまち」(<http://www1.odn.ne.jp/~caa58790/>)

(実際に東海道を歩いた人の作ったページ)

・東海道を一人で歩いた人の日記

(<http://www.japan-city.com/toukai/>)

・伊勢街道を歩いた人の日記(<http://japan-city.com/ise/>)

・伊勢本街道のページ

(<http://www1.mahoroba.ne.jp/%7Etkm/teruakitop.html>)

四 評価について

評価は、教師の評価を十点、生徒の相互評価を四十点でおこ

なった。

教師の評価については、

発表技術(声や視線など)

資料作成(調べたことをまとめる)

プレゼン技術(ソフトウェア利用の工夫)

発表内容(内容の深さ)

創意工夫（各自の意見の内容）

の五項目を各二点で評価した。また、生徒の相互評価は、一人
一点、よければ点を入れるという方法でおこなった。

五 実際の授業の様子

学習したことを発表する
ためのスライド作り

互いに教え合う



発表の様子

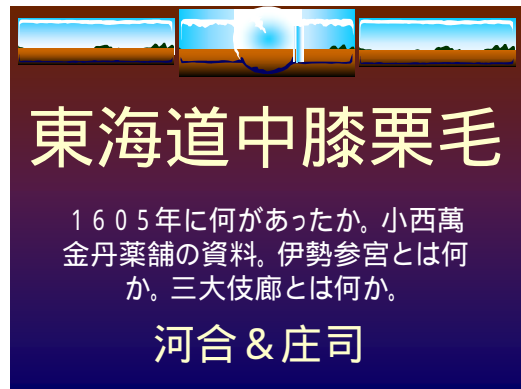


評価表に記入



残ってスライドを作成している

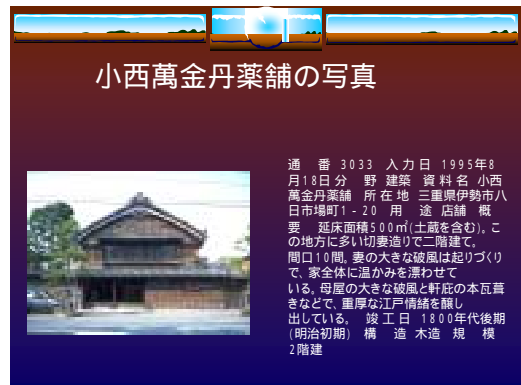




東海道中膝栗毛

1605年に何があったか。小西萬金丹薬舗の資料。伊勢参宮とは何か。三大伎廊とは何か。

河合&庄司



小西萬金丹薬舗の写真



通 番 3033 入力日 1995年8月18日 分野 建築 資料名 小西萬金丹薬舗 所在地 三重県伊勢市八日市場町1-20 用途 店舗 概要 延床面積500㎡(土蔵を含む)。この地方に多い切妻造りで二階建て。間口10間。妻の大きな破風は起りづりで、家全体に温かみを漂わせている。母屋の大きな破風と軒庇の本瓦葺きなどで、重厚な江戸情緒を醸し出している。竣工日 1800年代後期(明治初期) 構造 木造 規模 2階建

六 生徒の感想

- みんなの発表が、上手かった。十返舎一九についてよくわかった。
- 僕は、東海道中膝栗毛を調べ、旅の必需品や何故手形があるかが分かり歴史にまた興味が持ちました。
- みんなの発表をみて、こんな工夫もできるんだなあと思いました。
- 家でパソコンをやっているの、簡単だろう！と思うていたけど、今回、授業でスライドショーをやってみて、意外に難しかった。

- みんなの発表を聞いて東海道中膝栗毛のことが、今まで以上にわかったと思いました。映像に書いてあることをそのまま読むことは、みんなを引きつけないことが、わかりました。音や、文字のアニメーションをつけると、見ても楽しいし、自分が作っていても楽しかった！また、する機会があったら、やってみたいです。
- 江戸のことがよくわかった。ベストセラーになるのもわかった。
- コンピュータを使って調べるのが、面白かった。
- 今まで知らなかった事を知ることができた。みんないっぱいいろんなことをしらべていてすごい！と思った。
- みんなけっこういろいろなることを調べていてすごい勉強になりました。もし次にやるのならもっと個性的なものを作りたいと思います。
- 東海道中膝栗毛と十返舎一九を授業で調べるまでは、弥次さん喜多さんが相可の道を通ったこととか知らなかったけどたくさん旅の事がわかりました。
- 自分達が調べてもわからなかったことも他の人の発表を見てわかって良かった。
- 東海道中膝栗毛とか、今まで聞いたことがあるかどうか、わからなかったぐらいだったから、よくわかってよかった。
- いろいろなることがわかった気がする。クラスの人の発表を聞いていても、いろんなことを知りました。いい勉強になった。

●アニメーションを作るのが、すごく楽しかったし、みんなの発表を見るのも人それぞれあって、面白かった。

●インターネットを使うと、いろいろな情報がすぐに見られて便利だと思った。みんな工夫していてもしろかった。

●自分では発見出来なかったアニメーションがあつて面白かった。

●みんなすごかった。東海道中膝栗毛についてとてもよくわかった。

●今回の国語でパソコンの使い方が分かり、とても楽しいことだとわかりました。前よりは速く文字が打てるようになったし、パソコンでいろいろ調べたりすることができたのでとても楽しかったです。国語でいい経験ができたので本当によかったです。

●この授業でたくさんを知ることができた。自分が調べたこと以外にも、みんなが知らないことを調べていてよくわかった。

●自分の発表のあと、他の人の発表を聞いてみたらすごいと思ひ、比べものにならないと思いました。楽しかった！

●今回この授業で、すごく勉強になったことは多かったです、プレゼンテーションの難しさがわかりました。

●作るの簡単で楽しいけど、みんなに発表するのは考えさせられるし、難しいと思いました。

●音声をメモしてそれを書いたのがよかった。パソコンが使えるようになって嬉しかった。

七 問題点

いくつかの問題点が浮かび上がってきた。一つは、メディアリテラシーと関わりがある部分である。特に、ホームページを使った調べ学習は、コピーを手軽にできてしまつて、内容をよく吟味せずに貼り付けをしてしまふ傾向がある。また、本当に理解しているのかどうかわからないものがあつたりする。

もう一つは、ホームページ上に読めない漢字が出てきたときに、困ることが多いようだ。補うために机間巡視や「ひらがなナビ」などのソフトを利用して、生徒の支援をしてやる必要がある。また、漢字の習得は、教科としても大切なことなので、コンピュータの授業がこれから発展していったとしても、大切にしなければならぬ分野であるといえる。

そして最後に、発表の仕方についての問題である。ただ単に、発表をしないだけでは難しいだろう。これから、表現分野の授業が増え、いろいろな事例が紹介されれば、また解決されることだろう。今のところ、

発表時間を区切る。(一分間発表)

スライドは。枚まで。

文字は一つのスライドに。字まで

等といった制限をわざとつけて発表させるといふ指導の仕方が紹介されている。

マルチメディアを利用した「国語」『東海道中膝栗毛』の授業

指導計画と展開

ね ら い	学習活動と教師の支援	学習資料とＩＴスキル
・ 概論の学習をする。学習の基礎知識とねらいをつかむ。 ・ 調べ学習の課題を持つ。 ・ テキストを使って基礎的な共通知識の学習をおこなう。 ・ 二人一組で課題を考える。 ・ どのような評価になるのか知ること、評価に対しての自分の課題を持つ。 ・ 自分の意見を発信することができる。 ・ 他人の発表を聞き、自分で評価することで、自分の修正すべき点に気づく。 ・ 授業全体を振り返って、意見をまとめる。 ・ 相互評価を常におこなうことで、自分自身の客観的な評価・能力をトレーニングする。 ・ 自分のおこなった学習内容を、まとめることができる。	・ 文学史をプリントで学習する。（今から、どの時代の文学を扱うのかを理解する） ・ 東海道中膝栗毛・十返舎一九を検索する。（具体的に簡単な調べ学習をおこなってみる。生徒の調べ学習を助けるためのwebページを作成しておく） ・ 「東海道中膝栗毛」現代語訳本文（伊勢古市の部分）を読む。（自分の身近なものほど興味・関心は抱きやすいと思われるので、伊勢古市の部分を現代語訳で内容を把握させる） ・ 理解したことを発表するためのパワーポイントを利用して、スライド作りをおこなう。（自分がどのような部分に興味・関心を持ったかを把握させ、その部分をもう少し詳しく調べさせる） ・ 発表会をする。 ・ 授業のまとめを書き込む。（他の生徒の発表を聞いて、感想をweb上の掲示板に書き込む） ・ まとめプリントの作成（この授業を通して、どのようなことを理解したかまとめさせる）	・ 日本語入力を学習する。 ・ コピー＆ペースト・カット＆ペーストを習得する。 ・ web上での検索を学習する。（調べ学習の時、どうしても知っておかなければならない技術の習得） ・ リンクファイルを利用して、調べたい事柄をいくつか見つける。 ・ ファイルを作成し保存する。（調べたことを保存しておく技術を習得する） ・ パワーポイントの使用方法を学習する。（発表のためにコンピュータを使う技術を習得させる） ・ 他の生徒の発表を視聴し、使っている技術を自分たちの発表に取り入れる。（技術的スキルの伝達） ・ 掲示板の入力内容について、人権への配慮やモラルやネットiquetteの指導をおこなう。